

大阪市教

2025年 2月6日
VOL. 621

発行 大阪市学校園教職員組合
大阪市中央区法円坂1-1-35(大阪市教育会館内)
TEL 6910-8700 FAX 6910-7990



市対連 大阪市人口増 出生率低下 行政が少子化対策に逆行

大阪市対策連絡会議(市対連)は、学習&要求持ち寄り集会を1月24日に行い、中山奈良女子大名誉教授が学習講演「大阪市から考える少子化対策」を行いました(以下、講演要旨)。

人口減少＝悪ではないが、日本の場合減少のスピードが速く高齢化も急速に進んでいる。子どもを産み育てたいという若者の最も本質的な希望が叶わない。産めない社会的問題、経済的問題がある。子育て支援は貧弱。高等教育費が高い。

「異次元の少子化対策」は新自由主義的な雇用政策を放置している。30代男性の有配偶率は正規で6割、非正規2割。年収500万以上7割、2500万以下3割。子育て期間のみ労働時間を短縮してもだめで、日本の長時間労働全体を解決しつつ、その中で子

育て世帯の長時間労働を見直すべき。
ジェンダー問題
女性の就労と育児を両立させる対策が遅れているため出産をあきらめる女性が増大。家事・育児の負担が女性にかかっている限り少子化対策は前進しない。男性の意識改革だけでなく、長時間労働の見直し、社会全体でのジェンダー問題の解決が重要。日本のジェンダーギャップ指数は118位。

先進国で唯一実質賃金が低迷している。生み出した富に対する企業・資本家の取り分が大きくなり、内部留保が増大している。最低賃金の引き上げ、中小企業対策が必要。

東京一極集中の見直しがない。若者が集中しているが、東京の合計特殊出生率は常に全国最下位で23年0.99。通勤時間が長く、住宅が狭

く子育てしにくい。大阪市は人口が増え続けている。社会増が自然増を上回っている。日本人はほぼ増減なし、外国人2万人の社会増が大阪市の人口を増やしている理由。他市から転入しているというより技能実習生の増加だと思われる。大阪府の合計特殊出生率は1.29、大阪府は1.16で府内の市で最低。人口増加率上位の行政区は、浪速、中央、天王寺、西、北、減少率

大阪市教育職員

年度	病気休職者数
2021	184 (143)
2022	198 (165)
2023	171 (143)

() は精神疾患者の数

残業代ゼロ制度廃止を 少なすぎる教職員を増やせ

「心病み休職の教員、過去最多711人。新任の退職理由で3割超える」と12月20日付新聞が文科省調査結果を報じました。

上位は、平野、此花、住之江、鶴見。人口が増えているのは中心部、ただし出生率は低い。タワーマンションによって若い層が流入してきているため、子どもは一定増えているものの、合計特殊出生率の回復に寄与していない。

「保育、教育民間任せ」
大阪府内で保育料の独自軽減施策を実施している市町村は13あるが大阪市は無し。保育所は民間任せ、高校教育は私立任せという考え。専門性が必要なのに保育士資格なしで保育者になれる。学童保育指導員は非正規雇用が大半。行政職員も会計年度任用職員が多い。行政が少子化対策に逆行。

子どもの減少↓学校、保育所の統廃合ではなく、少人数学級、少人数保育を導入すべき。「少子化↓集約化」ではなく、住み続けられるまちづくりをすすめる中で少子化対策を進める必要がある。

ガーベラ だより 教職員未配置4739人 講師給料表2級適用を

全教は「教育に穴があく(教職員未配置)」実態調査結果を1月9日公表し、教員の本数に必要数に達していない「教員未配置」が、34都道府県11政令市で4739人に達していることを明らかに

にしました。一方で、「定数内講師」として配置され、正規と同等の働き方をしている非正規の先生たちも現場では働いています。本来正規で充てなければならぬ定数をすでに講師が補って

いる現状の中で、教職員未配置が社会問題となっっています。臨教部は、勤務・労働条件で「講師の待遇改善」(給料表2級適用)を大阪府連・大阪市地区協議会の25年度要望書で要求し、1月にその

回答が返ってきました。「常勤講師に適用される給与等」は「他の自治体の状況等も参考にしつつ、引き続き、慎重に検討」とあります。千葉県は、「正規と非正規の賃金差改善」(2級適用)が実現したとニュースで報告しました。「声を上げれば改善」を確信に、今後も闘い続けましょう。

「定額働かせ放題」、「教員残業代ゼロ制度」の廃止が必要です。石破茂政権は教員の「処遇改善」策として、教職調整額(月給の4%)を25年度予算案では1%引き上げるため22億円を計上(実施は26年1月から)しました。しかし、義務教育等教員特別手当(教員の月給に平均1.5%上乗せ)を1%に縮減、複式学級担任手当を廃止するとしています。両手当の廃止・縮減額合計11億円。

財務省は残業代制度に移すべきと主張していますが、必要な財源は教員向けの各種手当の廃止・

たんぽぽ だより 2月

今私のクラスで最後の参観に向けて準備をしています。最後の参観は向けて準備をしています。最後の参観は国語の教科書にある物語をベースにした発表会。日々やらないといけない事に追われている中で、発表会練習

最後の参観は国語の教科書にある物語をベースにした発表会。日々やらないといけない事に追われている中で、発表会練習

あげようと努力しています。練習時間を自ら確保しようとしています。この1年の成長を改めて感じます。発表会形式の参観は準備に時間がどうしてもかかりました。少しでもいいから心と時間の余裕が担任や学年に無いと難しいなと感じます。今までにさせてあげようとも諦めた年もありました。また4月から新年度が始まりまた発表会を開けますように、と願った瞬間でもありました。



文化の つどい 城北

第38回目の文化のつどいを1月11日に開催しました。老若男女30人を越える参加でお喋りに花が咲きました。

文化行事はおたぎりさくらさんをお招きしてのマジックショー。大いに脳を活性化させました。ロープを使ったマジックの妙技や実技指導もあり、笑いと歓声に包まれました。

分会交流では現役教職員から、厳しい現場の様子が語られました。万博問題では教育課程の編成権は学校にあるのに子どもを動員しようとすることに怒りの声があがりました。



新年の会 東南・東部

東南支部・東部支部の新年会が1月24日新任を含む18人で行われ、支部役員の青年が明るく元気に場を盛り上げました。

自己紹介や歓談では、「初主任だけど教えてもらって助かっている」「職場が変わっても声をかけてもらってつながっていてありがたい」「新任で他府県から大阪に来たので声をかけてもらって本当に助かってる」など笑顔で語られました。組合員が日々、声をかけて素敵なつながりを作っています。

